



GHIT Fund

Global Health Innovative Technology Fund

Annual Report 2023

GHIT Fund 2023年度年次報告書

Annual Report 2023

GHIT Fund 2023年度年次報告書

GHIT Fund

Global Health Innovative Technology Fund

CONTENTS

代表あいさつ	03
ストラテジックプラン FY2023-FY2027	05
ポートフォリオ	07
臨床試験～薬事申請等	09
Special Feature	11
2023年度投資採択案件	13
ケニア・南米訪問レポート	17
GHIT 10th Anniversary Dinner	19
2023年度の活動ハイライト	21
1分でわかるGHIT	25
GHIT's Diverse Culture 10年の歩みと多様な働き方	27
財務報告	29
リーダーシップ	31
資金拠出パートナー&スポンサー	33
組織概要	34





代表あいさつ

パートナーシップで 顧みられない感染症に 立ち向かう 新たな10年に向けて

新たな戦略、新たなパートナーの参画

2023年、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（以下、GHIT Fund）は創設10周年を迎え、大きな節目の年となりました。第3次5カ年計画「GHIT 3.0」が始動し、G7広島サミットの折には日本政府から2億米ドルの資金拠出（ブレッジ）を表明いただくとともに、複数の新たな資金拠出パートナーが参画してくださいました。また、GHIT Fundが投資（助成）するプロジェクトにおいて、欧州医薬品庁（European Medicines Agency: EMA）から肯定的な科学的見解を受領し、大きな一歩を踏み出しました。この年次報告書では、2023年度の活動を振り返り、顧みられない感染症に向けてパートナーとともに立ち向かった歩みをご報告いたします。

この4月から第3次5カ年計画であるGHIT 3.0を始動しました。製品をいち早く患者さんのもとに届けるという私たちの使命を果たすため、グローバルヘルスの研究開発を効率化・加速化します。この計画は、イノベーションの加速、製品開発の投資インパクトの最大化、パートナーシップで生み出す化学反応という3つの柱に基づいて、変革を推進する取り組みを具現化するものです。（P5-6）

私たちの戦略や活動に共感いただき、富士レビオ・ホールディングス株式会社、レメディ・アンド・カンパニー株式会社、栄研化学株式会社の3社を新たな資金拠出パートナーおよびスポンサーとして迎え入れ、長期的なパートナーシップを締結することができました。3社ともそれぞれ革新的なソリューションを通じて、グローバルヘルスの課題解決に向けて取り組んでいます。また、技術移転や低中所得国（LMICs）での医療技術へのアクセス、ライセンス供与などを促進するために、ダカール・パスツール研究所や国連が支援するMedicines Patent Poolと連携強化の覚書を締結しました。（P21）

10年の節目の大きな成果

極めて重要な成果として挙げられるのは、就学前児童の住血吸虫症を治療するために小児用プラジカンテル・コンソーシアムによって開発されたarpraziquantellに対し、EMAから肯定的な科学的見解を得られたことです。これは海外のパートナーと協力して日本の技術を活用し、世界的な医療ニーズに応え、5,000万人以上の子どもたちとその家族に希望をもたらすという、私たちの組織的な使命をまさに具現化したものです。（P11）



この成果は、GHIT Fundが過去10年間に300億円以上を投じて支援してきた120件以上の革新的なプロジェクトの中でも傑出しており、180以上の開発パートナー（そのうち約65%が海外機関）の広範なネットワークが生み出す、特筆すべき将来性と可能性を物語っています。GHIT Fundのポートフォリオを構成する様々なプロジェクトは、世界で苦しむ何百万人、何千万人を救う可能性を秘めており、だからこそグローバルヘルスの課題解決に向けて国境を越えてパートナーシップを結び、立ち向かう価値があるのです。

グローバルヘルスのリーダーとともにActionを呼びかける

さらに、5月に長崎で開催されたG7長崎保健大臣会合の前に、私たちは長崎大学、Uniting to Combat NTDs、そしてグローバルヘルスのリーダーたちとともに、顧みられない熱帯病（NTDs）を世界的な課題として優先的に取り組むための国際シンポジウムを開催しました。その成果は、NTDsに対する研究開発およびアクセス&デリバリーの加速に向けた行動を呼びかける「長崎アウトカム・ステートメント」に結実しました。そして、この呼びかけに応えるように、G7広島

サミットにおいて、岸田文雄内閣総理大臣はGHIT Fundに対し、日本政府による5年間で2億米ドルのプレッジ（誓約）を発表しました。（P6）

GHIT Fundは未来を切り開いていくために、グローバルヘルスの研究開発における日本の代表的な官民パートナーシップとして、日々行動を起こしています。パートナーの皆さんから創設当初よりいただいている継続的な支援に深く感謝の意を表するとともに、顧みられない感染症への取り組みに参画いただける新たな仲間を温かく歓迎します。私たちは、グローバルヘルスの課題に直面しながらも情熱を持ち続け、パートナーの皆さんの団結力「Power of Partnership」に支えられ、これからの新たな10年に向かって邁進してまいります。

國井 修
CEO・専務理事

中谷 比呂樹

中谷 比呂樹
会長・代表理事

ストラテジックプラン FY2023-FY2027

第3次5カ年計画「GHIT 3.0」始動、着実に前進

2023年4月、GHIT Fundは創設10周年を迎えたとともに、第3次5カ年計画の「GHIT 3.0」が始動しました。グローバルヘルスの研究開発を促進し、より速く、必要な製品を最も必要としている患者さんに届けることを最重要目標とするこの計画は、日本の技術やイノベーションを通じて顧みられない感染症と闘うGHIT Fundの役割を改めて明確にするものです。GHIT 3.0 は以下の3本柱の戦略に基づいています。

1

イノベーションの 加速

探索研究（ディスカバリー）から臨床試験、薬事承認での各段階において、研究開発におけるイノベーションを促進するために、継続的な製品開発への投資を実施します。特に後期製品開発（後期臨床案件）への積極的な投資を行い、より速く、治療薬、ワクチン、診断薬を最も必要としている患者さんに届けるようにします。さらに、業界の垣根を越えた国際的な共同研究による製品の共創を促進し、パンデミックや気候変動などの様々な課題に対処する技術ネットワークを構築していきます。



GHIT 3.0

2

製品開発の 投資インパクトを最大化

結核・マラリア・顧みられない熱帯病（NTDs）の製品開発を加速化し、ポートフォリオとリソースを最適化し、製品開発の投資インパクトを最大化します。研究開発への持続可能な、そして効率的な投資を継続できるように、様々な投資メカニズムを積極的に模索していきます。また、ガバナンスや組織制度の整備に取り組むことで、コンプライアンスやリスク管理の強化、そして意思決定プロセスのさらなる透明化を図ります。



3

パートナーシップで 生み出す化学反応

低中所得国に特化した強固な製品戦略を策定するとともに、臨床案件の戦略的なパートナーシップを確立し、アクセス&デリバリーの環境整備に努めます。日本政府および国連開発計画（UNDP）と共同で構築したUniting Efforts for Innovation, Access and Deliveryなどのグローバルネットワークを活用し、イノベーション（R&D）からアクセス&デリバリーまで一貫して進めていきます。

R&D 研究開発の推進と製品化の実現

目的	R&Dのマイルストーン	2027年3月までの 達成目標
製薬業界、 学術界などによる イノベーションの さらなる推進	リード化合物探索	リード化合物探索への投資 5件
	非臨床試験	非臨床試験への投資 12件
臨床後期案件への 積極的な投資	第I相試験	ヒト初回投与試験 (First in Human) の実施 6件
	第II相試験～ 第III相試験	概念実証 (Proof of Concept) の達成 3件
	薬事申請	規制当局による薬事承認 3件
		現地プログラムによる製品化 1件

資金調達：大規模な増資が成功への道を切り開く

2023年5月のG7広島サミットで岸田文雄内閣総理大臣はGHIT FundとUNDPに対し、日本政府による2億米ドルの資金拠出へのプレッジ(誓約)を発表しました。また、GHIT Fundはビル&メリンダ・ゲイツ財団、ウェルカム、そして国内外の製薬企業や様々な業界パートナーから第3期への事業支援をいただいています。これはGHIT Fundの研究開発への展望、グローバルヘルスへの影響力・インパクトを力強く示すものです。GHIT 3.0の始動と同時に、多くの重要なパートナー企業もサポートを表明しており、また新たなパートナー&スポンサーも参画しています。(P21参照) GHIT Fundは今後5年間で4億米ドルを目標に、継続的な事業支援の確保に努めます。

「我々が研究開発費を調達する仕組みとして新たに始めた試みは、その革新性が証明され、他が追随する先駆的なモデルとなりました。GHIT Fundがグローバルヘルスに与えるインパクトに改めて焦点を当てながら、今後3年間、この関係を継続できることを嬉しく思います。」(2023年5月)

ケイティ・アインテルス・オウエン

ビル&メリンダ・ゲイツ財団
顧みられない熱帯病/ワクチン開発部門ディレクター



ポートフォリオ

探索研究

非臨床試験

治療薬/ワクチン

Target Research

Screening

Hit-to-Lead

Lead Optimization

診断薬

Target Research

Product Design



顧みられない
熱帯病

シャーガス病



リウマチマニア症



シャーガス病



オンコセルカ症



住血吸虫症



マラリア



結核



累積投資額

333億円



各プロジェクトの詳細については、GHIT Fundのウェブサイト・ポートフォリオのページをご覧ください。

<https://www.ghitfund.org/investment/portfolio/jp>



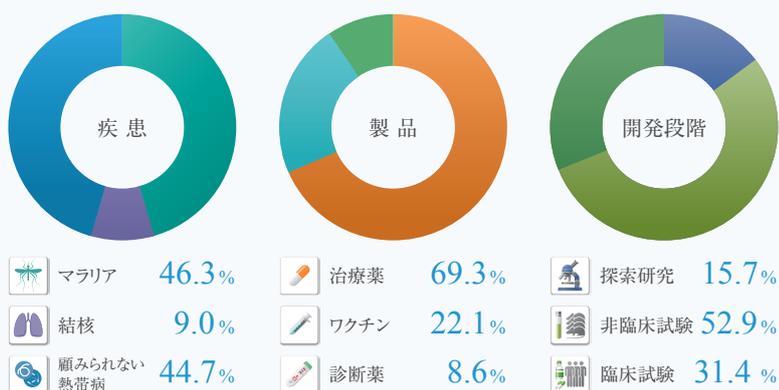
臨床試験



<p>内臓リーシュマニア症</p>	<p>皮膚リーシュマニア症</p>	<p>住血吸虫症</p>	<p>住血吸虫症</p>
<p>リーシュマニア症</p>	<p>ハンセン病</p>		<p>マイセトーマ</p>
<p>リンパ系フィラリア症、オンコセルカ症</p>			

2024年3月31日時点

投資概要 (2013~2023年度)



126件
投資案件

181団体
製品開発パートナー
日本 62団体
海外 119団体

2023年度

42億円
投資総額

13件
投資案件

3団体
新たに参画した日本の機関

8団体
新たに参画した海外の機関

臨床試験～薬事申請等

製品を必要とする患者さんの手に届けるまであと一歩。

臨床試験から薬事申請の段階まで、8件のプログラムが世界各地で進行しています。



CpG-D35 / © Sydelle Willow Smith-DNDi



Arpraziquantel / Photo credit: Unlimit Health/Uganda

コートジボワール

arpraziquantel

住血吸虫症／小児用製剤

コロンビア

CpG-D35

皮膚リーシュマニア症／治療薬

ペルー

SJ733

マラリア／治療薬



ブラジル

LepVax

ハンセン病／ワクチン

SJ733

マラリア／治療薬

開発段階: 第IIb相臨床試験

対象国: ペルー



ALAQ-FDC

マラリア／治療薬

開発段階: 第III相臨床試験、承認申請

対象国: ルワンダ、ウガンダ、アンゴラ、ナイジェリア、タイ



AnAPN1

マラリア／ワクチン

開発段階: 第I相臨床試験

対象国: ガボン



ホスラブコナゾール

マイセトーマ／治療薬

開発段階: 承認申請準備中

対象国: スーダン



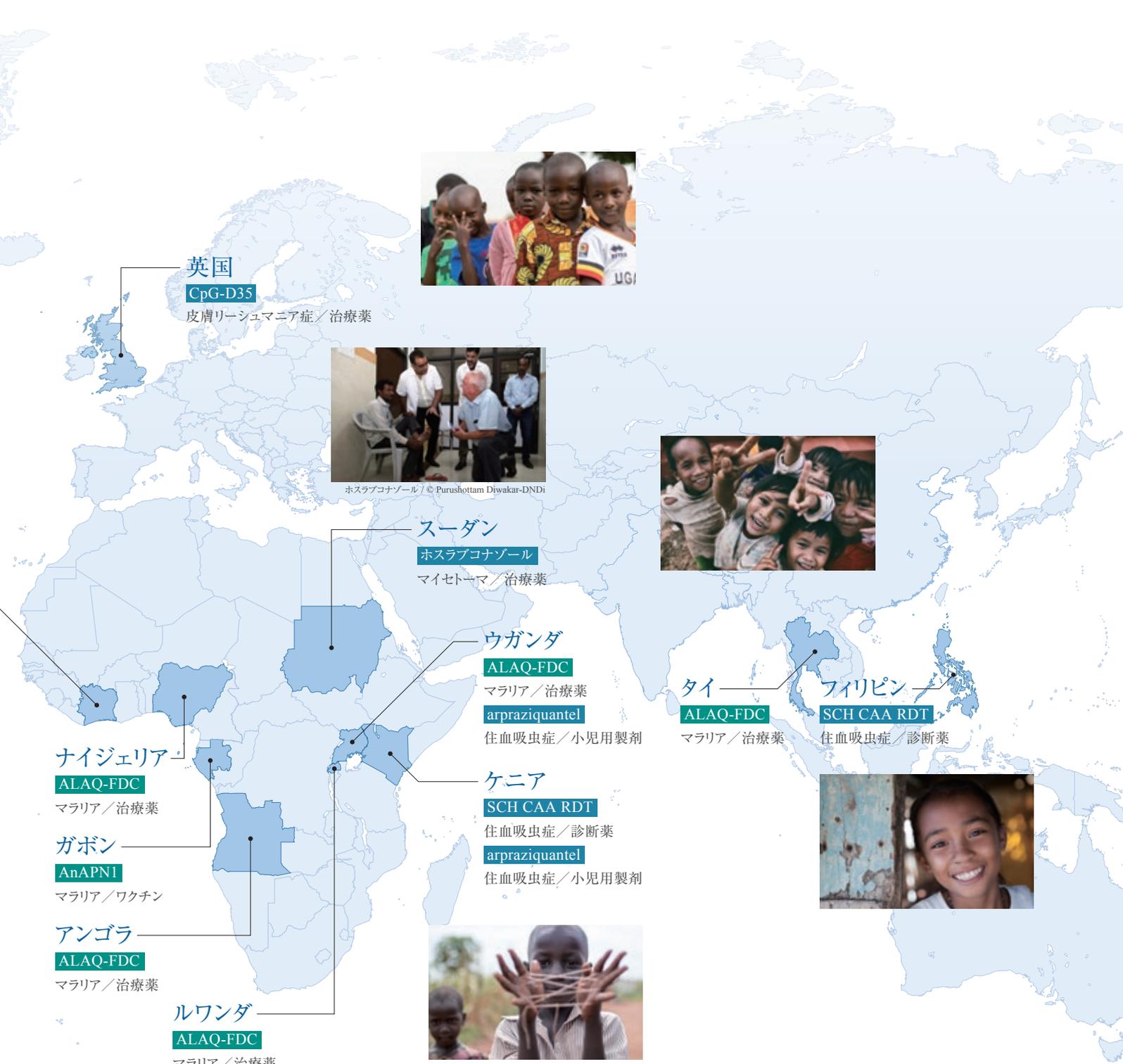
SCH CAA RDT

住血吸虫症／診断薬

開発段階: 製品開発

対象国: ケニア、フィリピン





臨床試験について各プロジェクトの詳細は、
ウェブサイトでご覧いただけます。——>



LepVax

ハンセン病 / ワクチン

開発段階: 第I相臨床試験
対象国: ブラジル

CpG-D35

皮膚リーシュマニア症 / 治療薬

開発段階: 第I相臨床試験
対象国: 英国、コロンビア

arpraziquantel

住血吸虫症 / 小児用製剤

開発段階: 承認申請、アクセス
対象国: コートジボワール、ケニア、ウガンダ
およびその他のまん延国

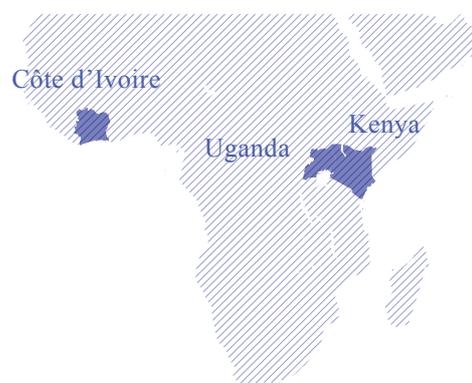
Special Feature

「arpraziquantel」就学前児童における住血吸虫症の治療薬として欧州医薬品庁(EMA)から肯定的な科学的見解を受領

疾患:住血吸虫症
製品:小児用製剤
開発段階:承認申請、アクセス
実施国:コートジボワール、ケニア、ウガンダ
およびその他のまん延国



Photo credit: Unlimit Health/Uganda



2023年、小児用プラジカンテル・コンソーシアム(以下、コンソーシアム)が開発した就学前児童のためのarpraziquantelが、GHIT Fundが投資した開発中の治療薬の中で初めて欧州医薬品庁(EMA)の肯定的な科学的見解を得ました。GHIT Fundは2013年よりコンソーシアムを支援しています。

重要なニーズに対応

住血吸虫症は2億4,000万人以上が罹患しており、そのうち約5,000万人が就学前児童です。住血吸虫症を治療せずに放置すると、臓器に致命的な慢性炎症を引き起こすだけでなく、貧血、発育不全、学習能力の低下など、子どもたちの健康に深刻な影響を及ぼします。現在、就学児や成人の標準治療には、安全で有効であるプラジカンテルが使用されていますが、就学前児童に適した製剤がありません。

パートナーシップの力

住血吸虫症における初の国際的な非営利官民パートナーシップとして2012年に設立されたコンソーシアムは、14のパートナーと協力者で構成されています。創設メンバーでもあるアステラス製薬株式会社(本社:日本)が独自の革新的な製剤技術によって、水

に溶解、気候の影響を受けにくく、子どもが服用しやすい錠剤を開発しました。また、Merck(本社:ドイツ)が製剤を最適化し、パートナーのファルマンギーニョス(所在地:ブラジル)と協力して臨床開発プログラム用のバッチを製造しました。

アクセス&デリバリーに向けて

2023年12月、EU-M4all制度に基づきEMAから肯定的な科学的見解が示されたことで、arpraziquantelは世界保健機関(WHO)の事前認証(2024年第2四半期初頭予定)や必須医薬品モデルリスト(2025年予定)への掲載が期待されています。また、ファルマンギーニョスはブラジルでの薬事申請を準備しており、住血吸虫症のまん延国で利用できるようにarpraziquantelを製造する予定です。Merckからケニア・ナイロビのユニバーサルコーポレーションへの技術移転により、今後数年にわたりアフリカ諸国向けの現地生産が強化されます。GHIT Fundはパートナーとともに、アフリカのまん延国でarpraziquantelの導入する準備を進めるとともに、治療薬への公平かつ持続可能なアクセスを提供し、原料や資金調達の新たな仕組みを確立するために、コンソーシアムの実施研究プログラム(ADOPT)を支援しています。

新しいマイセトーマ治療薬候補の臨床試験結果を発表



疾患:マイセトーマ
製品:治療薬
開発段階:承認申請準備中
実施国:スーダン



ホスラブコナゾールは、深刻な障害を引き起こす慢性感染症である真菌性マイセトーマ(菌腫)の新しい経口治療薬として期待されています。その世界初の二重盲検無作為化臨床試験結果が、2023年に発表されました。これまで、マイセトーマの治療選択肢は限られており、価格や、毎日4錠の服用を12カ月間続ける必要があるといった負担の重さなどの課題により、治療中断による再発の可能性も高い状況でした。GHITは2017年からホスラブコナゾールの開発を支援しており、Drugs for Neglected Diseases initiative (DNDi)はスーダンにおいて、ハルツームのマイセトーマ・リサーチ・センター、オランダのエラスムス医療センター、およびエーザイ株式会社(エーザイ)と共同で試験を実施しました。ホスラブコナゾールは、エーザイが発見したアゾール系経口抗真菌剤であり、マイセトーマ治療薬として忍容性が高く、1日4錠の服用が必要な既存の治療薬に対し、週1回2錠の服用で済み、患者さんが使用しやすい、有効な薬剤となる可能性があることが示されました。本臨床試験結果を基に、現在、スーダンの規制当局に対する承認申請を準備している段階です。



© Purushottam Diwakar-DNDi



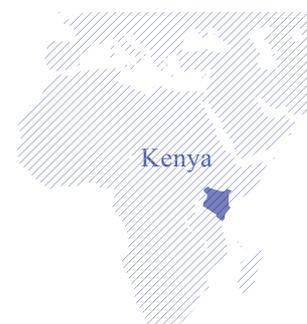
ボルナ ニャオケ医師
マイセトーマ部門責任者、DNDi

「マイセトーマは最も脆弱な立場にある人々を苦しめ、外見に著しい変形や障害を引き起こします。我々はGHITの支援を受け、ホスラブコナゾールの開発における重要なマイルストーンを達成しました。この有効な新規治療薬候補は患者に希望を与えるでしょう。」

病気のモニタリングと制御をサポートする 新たな住血吸虫迅速診断テスト



疾患:住血吸虫症
製品:診断薬
開発段階:製品開発
実施国:ケニア、フィリピン



現在、世界保健機関(WHO)の住血吸虫症診断ガイドラインでは、顕微鏡を用いた便もしくは尿サンプル中の虫卵検出が推奨されています。しかし、その手法は感度が低く、特に感染率や感染量が低い場合には十分に機能しません。また複数日にわたるサンプル採取と熟練した顕微鏡技師による検査が必要であるため、多大な時間を要し導入が困難です。現状を打破すべく、GHIT Fundは2020年からFIND、ライデン大学医療センター、Merck、長崎大学熱帯医学研究所とのパートナーシップに投資し、20分以内に結果が得られる安価で高感度な住血吸虫症迅速診断テスト(RDT)を開発しました。初期の経済的分析によると、この新たなRDTが承認されれば、疾病マッピングと医薬品流通を大きく変革する可能性を秘めています。現在、最適化された新たな検査法の実地評価が開始されるところで、この検査法の製造業者の公募が行われ、大きな関心を集めています。



サラ ヒンゲル ノガロ博士
主任研究員、FIND

「住血吸虫症は個人や地域社会にとって大きな問題ですが、治療も予防も可能です。この新しい迅速診断テストは、予防的治療に標的を定め、感染症の早期治療を確実にすることで、公衆衛生対策を一変させる可能性を秘めます。」

2023年度投資採択案件



マラリア／治療薬

TRP

新たなマラリア標的に対するフラグメントおよび構造ベースのヒット創出プラットフォーム

東京大学、オックスフォード大学、ダンディー大学、
Medicines for Malaria Venture (MMV)

ヒット創出のためのフラグメントベースのスクリーニングはマラリア創薬にはまだ適用されていません。本プロジェクトは、X線構造解析により加速された合成に沿ったリード化合物探索という最先端のXChemフラグメントアプローチを初めて適用することにより、高度に検証された2つのマラリア標的(Pf DPCKとPf KRS)に対し、高品質のヒット化合物シリーズを創出します。フラグメントベースのスクリーニングと最適化をマラリア創薬に応用することは斬新です。現在薬剤候補が存在しない高価値のマラリア標的に対する創薬の新たな出発点を提供し、急性期治療と感染阻止に加え、化学的防御／化学的予防の場面で使用できる化合物の開発は、この病気の撲滅の課題を推進する上で価値があります。



ポール ウィリス 博士
(MMV)



マラリア／ワクチン

PDP

新規赤血球期マラリアワクチンPfRipr5の前臨床開発 (PfRipr5-PD)

愛媛大学、住友ファーマ株式会社、欧州ワクチンイニシアチブ(EVI)、
Instituto de Biologia Experimental e Tecnologica (iBET)

マラリアはグローバルヘルスにおける最重要疾患の一つで、患者、死亡者数は甚大です。最近RTS, S/AS01 (Mosquirix™) およびR21/Matrix-Mワクチンがマラリア対策に導入されましたが、より有効な次世代マラリアワクチンが必要とされています。本プロジェクトは、先行GHITプロジェクト(T2018-151)の成果に基づき、愛媛大学と住友ファーマ株式会社が共同で発見した新規赤血球期マラリアワクチンPfRipr5の前臨床開発を進めています。PfRipr5は流行地の原虫に変異がほとんど無く、これまでの赤血球期マラリアワクチン候補抗原の欠点を克服できます。将来、PfRipr5が単一抗原ワクチンよりもより強く、費用対効果の高い次世代多価マラリアワクチンの開発に寄与することが期待できます。



ソフィー ファード 博士
(EVI)



マラリア／治療薬

PDP

再発性マラリアにも有効なSERCAP(単回投与根治および予防抗マラリア薬)の創出

田辺三菱製薬株式会社、ジョージア大学、
Medicines for Malaria Venture (MMV)

現在、マラリア治療はアルテミシニン併用療法(ACT)が主流であり、死亡例の大半を占めるアフリカでの耐性拡大は、重大な脅威です。この疾患の根絶には、既存薬の耐性株にも有効な新しい作用機序を持つ新しい薬剤が必要です。新規候補物質は、理想的には低用量の単回投与であり、肝臓および感染遮断活性が望まれます。本プロジェクトでは、独自の寄生虫学的プロファイル(血液、肝臓および有性期に加え、再発性マラリアの原因である三日熱マラリア休眠体に対する高い活性)を有する新規抗マラリア化合物のリード最適化を実施します。このプロジェクトは、次のターゲット候補プロファイルに適合する可能性があります。i) 標準治療のプリマキンに関連する溶血作用のない再発性マラリアに対する経口SERCAP、ii) 月1回の経口予防剤、iii) 3カ月有効な筋肉内注射予防剤。



スティーブン ブランド 博士
(MMV)



マラリア／治療薬

PDP

新規作用機序を有する抗マラリア化合物の前臨床開発

エーザイ株式会社、スクリプス研究所、
遺伝子工学バイオテクノロジー国際センター

抗マラリア薬には、投与スケジュールや副作用、急拡大する薬剤耐性の課題があり、とりわけ薬剤耐性マラリアに有効な新規作用機序および単回投与による治療効果を有する新薬の創出が切望されています。本プロジェクトでは、次世代PheRS阻害剤について、最近創出された有望な抗マラリア活性化合物を化学合成した上で、*in vivo*動物モデル、探索的安全性試験、複数の動物種における薬物動態試験によって評価し、前臨床開発候補化合物を選別することで、安全性、薬物動態、薬効プロファイルを明らかにします。先行プロジェクトの新規作用機序および複数の原虫ステージへの活性、単回投与による治療効果を維持しつつ、安全性と治療コストの改善が期待されます。



ファビアン クノフス博士
(エーザイ)





マラリア／治療薬

PDP

マラリア予防を目的としたマラリア電子伝達系を標的とする持続性注射剤の最適化研究、および前臨床開発候補品の選抜

塩野義製薬株式会社、長崎大学、国立感染症研究所、
Medicines for Malaria Venture (MMV)

季節性マラリアに対する5歳以下の子どもへの予防プログラムでは、2023年に約5,300万人の子どもが恩恵を受けています。現在用いられている経口予防薬は、有効性及び安全性は一般に良好とされますが、耐性の出現や服薬順守の難しさ、各家庭に毎月薬剤を届けるために多大なリソースとコストを必要とする等、様々な問題があります。そうした中、1回の投与で長期間の予防を可能とする持続性注射剤が期待されています。本プロジェクトは、2年間で前臨床開発候補品を見出すことを目指します。マラリア電子伝達系を標的としたリード化合物の最適化研究を実施し、1回の投与によって患者が集中する流行期間を通じて予防可能な、耐性化リスクが低い持続性注射剤を創出します。



高谷 健二 博士
(塩野義)



シャーガス病／治療薬

PDP

シャーガス病を対象とした新規化合物のリード最適化

田辺三菱製薬株式会社、DNDi



ジャン-ロベール イオセット 博士
(DNDi)

世界保健機関 (WHO) の推計では、世界で600万人が罹患しているシャーガス病は、無症状で進行し、感染者の30~40%が慢性期に進み、そのほとんどが心臓に損傷を受け、進行性の心不全や突然死に至る可能性があります。現在の治療薬は40年以上前に発見されたもので、急性期では有効性を示すものの、長期投与が必要で、深刻な副作用を引き起こします。本プロジェクトでは、Hit-to-Leadの継続案件として、最終的な目標である慢性期シャーガス病患者を対象とした安全で有効な新規経口薬の開発を目指し、DNDiが定める前臨床候補化合物として必要なプロファイルを満たすリード化合物の最適化を行います。すでにHit-to-Leadでは、有望な新規スピロ環化合物系統であるSpiro 5を特定し、急性期および慢性期感染前臨床モデルでの有効性実証に成功しています。



オンコセルカ症およびリンパ系フィラリア症／治療薬

PDP

オンコセルカ症およびリンパ系フィラリア症に有効なフィラリア成虫駆虫薬コラロピロニンA (CorA) の前臨床開発

エーザイ株式会社、ボン大学病院、
ヘルムホルツ感染症研究センター

顧みられない熱帯病であるオンコセルカ症(河川盲目症)とリンパ系フィラリア症(象皮症)は7,240万人の人々を苦しめています。現在の薬剤では、主にフィラリアの幼虫だけを殺虫しており、成虫の殺虫が求められています。その最も安全な方法の一つであり、治療的なアプローチは、生育に不可欠なボルバキアと呼ばれる共生細菌を標的にすることです。本プロジェクトでは、ボルバキア菌に対する新規抗生物質であり、リファンピシン耐性の細菌に対しても有効で高い安全性を示すコラロピロニンA (CorA) を開発します。ヒト初回投与試験(第I相試験)に向け、イヌを対象としたDMPKおよびGLP毒性試験と、イヌの心筋梗塞を対象としたPD試験を実施し、CorAの最終的な前臨床開発活動の完了を目指します。



アヒーム フラウフ 教授
(ボン大学病院)



住血吸虫症／診断薬

PDP

WHOが推進する住血吸虫症モニタリング・評価(M&E)計画を支援する高感度かつ特異的な血清学的迅速診断テスト

株式会社医学生物学研究所、Drugs and Diagnostics
for Tropical Diseases (DDTD)



マルコピアモンテ 博士
(DDTD)

2021年WHOは、住血吸虫症の予防管理系計画に対応できる新規の診断テストを募り、性能特性をターゲットプロダクトプロファイル(TPP)として設定しました。本プロジェクトでは、TPPに適合し、学齢期の小児の定期的なスクリーニングに対応できる、高感度で特異的なラテラルフローイムノアッセイ(LFIA)の開発を提案します。本プロジェクトチームはLFIA、抗原抗体生産、バイオマーカー同定の経験が豊富で、1年でプロトタイプのLFIAを作製することができます。商用のテストはどれもTPP基準を満たしていない中、本プロジェクトで開発する迅速診断検査(RDT)は、実用的で費用対効果の高いアプローチを提供します。このRDTは単独で課題解決する、もしくは現在開発が進む他のテストを補完することができます。





オンコセルカ症／診断薬

PDP

WHO オンコセルカ症撲滅計画の支援: 高感度で非常に特異度が高い迅速診断検査の商業化可能段階への推進

株式会社医学生物学研究所、Big Eye Diagnostics, Inc. (BEDx)、Drugs and Diagnostics for Tropical Diseases (DDTD)



マルコピアモンテ 博士
(DDTD)

河川盲目症として知られるオンコセルカ症に、現在2,100万人が罹患し、2億1,800万人が罹患リスクにさらされています。WHOはその撲滅を支援するため、新規の高感度で特異的な迅速診断検査(RDT)を必要としています。本プロジェクトでは、オンコセルカ症の原因となる回旋糸状虫への曝露を検出するRTDを提案します。2マーカー同時検出系として、2種の*O. volvulus*抗原に特異的なIgG4抗体を検出します。WHOは2つのターゲットプロダクトプロファイル(TPP)を公表し、最も厳しい基準として特異性99.8%以上を設けています。私達のRDTは、99.8%以上の特異性を備えていることが米国疾病管理予防センター(CDC)によって示されており、オンコセルカ症の撲滅に貢献することが期待されます。



ハンセン病／ワクチン

PDP

ハンセン病ワクチンLepVaxの当事者参加型臨床研究

笹川保健財団、オズワルドクルス研究所、アメリカハンセン病協会



戸引理 博士
(笹川保健財団)

らい菌によって感染し、抹消神経系が侵されるハンセン病は、世界の新規診断患者数が年々減少しているとはいえ、2022年には174,087人おり、78.1%を占めるインド、ブラジル、インドネシアなどの流行地では依然として重要な問題です。本プロジェクトは、ブラジルでの第I、II相の安全性試験で、T細胞指向性サブユニットワクチンであるLepVaxの健常者とハンセン病患者に対する安全性と免疫原性を実証することを目的とすると共に、回復者と連携し、当事者参加型研究のモデルを目指しています。LepVaxは免疫関連神経障害を軽減することで評価される最初の免疫療法で、その有効性が証明されれば、2040年までに80万人以上のハンセン病による障害が回避され、それは20万人以上の障害調整生存年(DALY)に相当します。



マラリア／治療薬

PDP

熱帯熱マラリアの抗マラリア治療薬耐性化に対応する、アルテメテル-ルメファントリン-アモジアキン(ALAQ)を用いた三剤併用療法の有効性評価および導入準備

丸紅株式会社、マヒドン・オックスフォード熱帯医学研究ユニット、Medicines for Malaria Venture (MMV)、Shanghai Fosun Pharmaceutical Industrial Development Co., Ltd. (Fosun Pharma)



熊抱捷 博士
(Fosun Pharma)

熱帯熱マラリアは、サハラ以南の熱帯地域において特に小児の主な死因となっています。現在、アルテメシニンベースの併用治療(ACTs)が代替薬のない第一選択薬として評価されていますが、アルテメシニンの部分耐性(ART-R)の増加により、罹患率、死亡率が増加しています。本プロジェクトは、異なる抗マラリア薬耐性パターンを示す各地域で、Fosun Pharmaが開発、製造するALAQ-FDCの安全性、忍容性、有効性を、既存の第一選択薬であるAL、ASAQと比較して評価します。初めて、固定容量の三剤併用ACTが、マラリアまん延国での導入に向けて試験、準備される予定です。それは新たな抗マラリア薬の組み合わせをもたらすという観点から、グローバルな対応の重要な要素となります。



マラリア／治療薬

PDP

*P. vivax*マラリアの根治療法としてのSJ733とタフェノキンの併用療法

エーザイ株式会社、ケンタッキー大学



ファビアン グソフスキー博士
(エーザイ)

マラリア原虫ATP4阻害剤であるSJ733は、合併症のないマラリア治療薬の基準を満たしており、第Ia、Ib、IIa相試験のヒトデータでは、優れた安全性プロフィールと忍容性、良好な経口利用性、中程度の薬剤クリアランスが示されています。次の段階として、SJ733-タフェノキン(TQ)配合剤を1日、2日、または3日間投与するスケジュールで、*P. vivax*マラリアの根治の可能性を検討し、第IIb相試験を実施する予定です、第III相試験へのステップとなります。本プロジェクトの目標は、全世界に最も広がっている*P. vivax*マラリアの根治を目的としたSJ733とTQの併用療法の臨床的安全性と有効性を検討し、合併症のないすべての*P. vivax*マラリア患者の治療に適したSJ733-TQ配合剤を開発することです。



シャーガス病／治療薬

Screening

スクリーニングプロジェクト

長崎大学、DNDi





ケニア・南米訪問レポート



GHIT Fundは、180以上の国内外の製品開発パートナーとともに研究開発に取り組んでおり、うち110機関以上が海外のパートナーです。2023年度はケニア、ボリビア、ブラジルなど投資を行っているプロジェクトの現地視察やパートナーの訪問を精力的に行いました。

Report

I

ボリビア・ブラジル

シャーガス病の診断薬開発と中南米でのパートナーシップ強化



2023年8月、GHIT Fundの投資戦略兼ポートフォリオ開発&イノベーションズ アソシエイトヴァイスプレジデントの浦辺隼がボリビア・ブラジルを訪れました。現地の研究機関や病院を訪問し、臨床試験段階の「シャーガスLAMP法」の診断薬開発の進捗や、現地の状況を視察しました。また、南米の重要機関オズワルド・クルス財団 (FIOCRUZ) や顧みられない熱帯病 (NTDs) の治療薬の研究開発を推進する非営利団体DNDi (Drugs for Neglected Diseases initiative: 顧みられない病気の医薬品開発イニシアティブ) のラテンアメリカ本部なども訪問しました。



シャーガス病がまん延する南米ボリビアを訪問

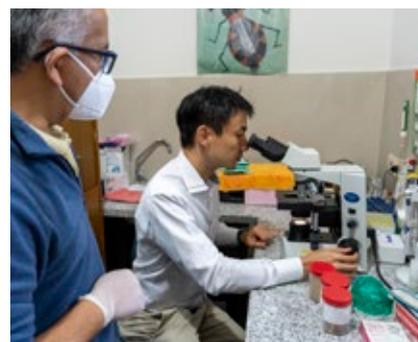
シャーガス病は、カメムシの仲間であるサシガメを媒介して感染する病気です。ラテンアメリカの21カ国でまん延しており、世界中で700万人が感染していると推定されるNTDsの一つです。診断ツールの不備などから感染率や罹患率の報告はほとんどありません。「シャーガスLAMP法」は、母体と新生児の早期診断を可能にする診断法で、健康被害の抑制に貢献すると考えられています。今回のボリビア訪問では、進行中の診断薬開発の進捗とデータ適合について、現地で視察確認を行いました。また、地方や自治体関係者・医療従事者と話し、早期診断・治療の重要性を広める調整や啓発活動を通して、現地で根底にある問題を確認しました。後期製品開発プロジェクトへの積極的な投資が、治療薬・ワクチン・診断薬を最も必要としている現地の患者により早く届けるために重要であるとの認識を新たにしています。

国際機関としてのGHIT Fundが触媒的な働きでパートナーシップを強化

GHIT 3.0 (第3次5カ年計画) では「低所得国との戦略的パートナーシップ」の強化を掲げています。今回のボリビア・ブラジル訪問における各機関との対話でパートナーシップがより強固なものとなりました。

オズワルド・クルス財団 (FIOCRUZ) 訪問では、将来的な協力・連携など多岐にわたる議論を行いました。将来のパンデミックと闘うための取り組みや、今後の連携に向けて引き続き議論を重ねます。また、DNDiのラテンアメリカ本部と会談し、中南米におけるNTDsの現状について情報交換を行いました。継続的な関係性強化により、NTDsのコミュニティでも国内外でリーダーシップを共に発揮していきます。

GHIT Fundは今後も、中南米諸国の研究機関との強力なパートナーシップにより、現地の拠点や各国のニーズに合わせた研究開発に貢献します。





GHIT FundのCEOである國井修と、投資戦略兼アクセス&デリバリーシニアディレクターであるチクワナ アイザックは、低所得国とのパートナーシップ構築のため2023年7月にケニアを訪れました。訪問先では、ケニア医学研究所 (KEMRI)、DNDi、ニャンザ州にある長崎大学との共同研究ユニットなどの研究パートナーと面会しました。また、医薬品を製造する現地メーカー、ユニバーサル・コーポレーションリミテッド (UCL) や、ケニア保健省も訪れました。

低所得国との研究協働ネットワークとコンソーシアム形成

GHIT Fundが低所得国との戦略的パートナーシップを強化する活動は多岐にわたります。第一に、低所得国と日本・諸外国との研究機関をまとめる協働ネットワークと、コンソーシアム形成の促進があります。これにより専門知識の情報やリソースが共有され、各国共通の健康課題に対処する共同研究イニシアティブが実現します。例として、小児用プラジカンテル・コンソーシアム(就学前児童の住血吸虫症による疾病負担を軽減することを目的とした国際的非営利パートナーシップ)による、新たな治療選択肢の開発が挙げられます。國井は以下のように述べています。

「ケニア医学研究所 (KEMRI) とケニア保健省が開発に貢献した新たな治療選択肢で、何千万人もの子どもが助かります。これにより住血吸虫症が減り、国やWHOのガイドラインも書き換わるでしょう。この世界的偉業が、ケニアの小さな町のホマ・ベイ病院の検査室で実施されたのは素晴らしいことです」。



低所得国の研究知識と技術の共有・移転

研究機関との知識と技術の共有・移転も、パートナーシップ構築の活動のひとつです。研究機関同士の交流を深めることで研究成果へのオープンアクセスや技術ライセンス契約を促進し、共同研究開発 (R&D) およびアクセス&デリバリー (A&D) プロジェクトのパートナーシップ構築を支援できます。

低所得国の課題を特定しながら投資の優先順位に反映

さらにGHIT Fundの投資対象は、3つの疾患群(結核、マラリア、NTDs)、3つの医薬品(診断薬、治療薬、ワクチン)、そして開発段階として探索研究から臨床試験、薬事申請まで幅広いです。投資のインパクトを現場で最大化するために、これからも低所得国の研究機関などを通じて課題を特定しながら、投資の優先順位に反映させていきます。

GHIT Fundは低所得国の研究機関との連携と現地のオーナーシップを組み合わせ、現地の視点や専門知識の強化を目指します。そして影響力のある保健ソリューションの開発に貢献していきます。



GHIT 10th Anniversary Dinner

10周年記念ディナーを開催

GHIT Fundは創設10周年を迎え、当基金の活動を支えていただいたパートナーの皆さまへの感謝と、第3次5カ年計画「GHIT 3.0」をお伝えるため、2023年10月20日、都内ホテルで「GHIT10周年記念ディナー」を開催しました。総勢約120名の方々にご参加いただきました。



開会の挨拶：GHIT Fund 中谷比呂樹会長・代表理事

開会の挨拶で、当基金会長・代表理事の中谷比呂樹より、この10年にわたりグローバルヘルスへの活動を支えていただいたすべてのパートナーの皆さまへの感謝の意を表するとともに、これからの10年へ向けてさらなるご支援とご協力をお願いしました。

来賓として、自由民主党幹事長代理 衆議院議員 木原誠二様から祝辞をいただき、GHIT Fundのこれまでの貢献、これからのグローバルヘルス発展の期待を込めたお言葉を頂戴しました。

これまで尽力いただきました評議委員の皆さまと共に、今後のさらなるGHIT Fundの飛躍を祈念し、鏡開きを執り行いました。

また、長年にわたりグローバルヘルスに力を注いでこられGHIT Fund創設にも貢献いただいた厚生労働大臣 参議院議員 武見敬三様にもご臨席いただき、ご祝辞を頂戴しました。

同祝辞では、「産学官民が連携し、日本と海外の機関をつなぎ、国際的なオープン・イノベーションを推進してきたこの10年は、途上国の方々に対してだけでなく、我が国の将来の創薬の基盤強化にも大きく貢献してきた10年だと思います。ぜひこの大きな役割をさらに発展させて、国際社会の中でも、特に低中所得国の人々がその健康を改善するために、さらなる活動に邁進することを心からご期待申し上げます」と述べられました。

その後、当基金CEO國井修により「GHIT 3.0- これからの5年に向けて」と題し、今後も日本、海外のパートナーの皆さまと共に、研究開発の効率化、加速化を目指し、製品を必要としている患者さんのもとにいち早く届けられるよう尽力していくことを改めて表明させていただきました。そして、会の終盤では、当基金CEO國井修とアフリカで出会い、その後、東日本大震災の復興支援などでも交流を深めてきたミュージシャンの藤巻亮太氏がスペシャルゲストとして登場、國井とアフリカや病気で苦しむ人々への思いを語り合うとともに、それらの思いや感謝のこもった歌唱を披露していただきました。

最後に、当基金CEO國井修より閉会の挨拶があり、これからも皆さまとの連携をさらに強化し、パートナーシップで感染症と共に闘い、邁進していきたいと述べました。改めて10年にわたりご支援いただいた関係者の皆さまへの感謝と、今後も引き続き当基金への温かいご支援をお願いし、閉会いたしました。



2023年度の活動ハイライト

新たな資金拠出パートナー&スポンサーの参画



2023年度は3社がGHITのパートナーに参画いただきました。

富士レビオ・ホールディングス株式会社（以下、富士レビオ）およびレメディ・アンド・カンパニー株式会社（以下、レメディ）がアソシエイトパートナーとして、また栄研化学株式会社（以下、栄研化学）がスポンサーとしてGHIT Fundの新たな資金拠出パートナー&スポンサーに参画しました。

富士レビオが有する臨床検査薬の専門性と経験、レメディの最新テクノロジーと技術革新を駆使した途上国での臨床試験の経験、栄研化学の診断薬における専門性と知見が製品開発の推進に結びつくことを期待しています。

GHIT 3.0の始動と同時に、多くの重要なパートナー企業からも支援の継続を表明いただき、GHIT Fundへの期待やグローバルヘルスへの貢献、インパクトを力強く表しています。

ダカール・パスツール研究所およびMedicines Patent Poolと連携強化



2023年10月、GHIT Fundはセネガルの非営利財団であるダカール・パスツール研究所 (Institut Pasteur de Dakar: 以下、IPD) と低中所得国 (LMICs) における感染症の診断薬およびワクチンの研究開発に対する連携強化の覚書を締結しました。IPDはバイオメディカル分野の革新的な研究やワクチン・診断薬の製造などを通じて、アフリカの医療アクセスの向上に注力しており、アフリカの22カ国以上の感染症流行対策に貢献しています。IPDとのパートナーシップを通じて、低中所得国に影響を及ぼす顧みられない感染症に対するワクチンや診断薬の研究開発を加速し、日本の製薬企業やアカデミアとの技術移転やノウハウの共有を通じて、低中所得国における低コストのワクチンや診断薬の製造支援を強化します。

また同月には、国連が支援する公衆衛生機関であるMedicines Patent Pool (本部: スイス・ジュネーブ、以下「MPP」) と医薬品へのアクセスの向上に対する連携強化の覚書を締結しました。MPPはライセンス契約や技術移転を通じて、医薬品への公平なアクセスを向上させる活動に従事しています。MPPとのパートナーシップを通じて、低中所得国における製品への公平なアクセスを改善、向上させ、技術移転におけるプロセスを合理化し、革新的な技術を効率的に展開できるよう推進していきます。

GHIT×FIND 合同セミナー・意見交換会：診断のイノベーション



2023年10月、世界の健康へ革新的診断で貢献していく国際的な非営利団体であるFINDの執行役員副社長（渉外担当）のウィロ・ブロック氏、FINDリソース動員担当副ディレクターのアユシ・アグニホトリ氏を招聘し、FINDの戦略や業務内容、グローバルヘルスの概要を説明するセミナーと意見交換会を開催しました。FINDは世界中で質の高い診断への公平なアクセスを確保することを目指し、国や地域社会、資金提供者、意思決定者、医療提供者、開発者を結びつけ、診断におけるイノベーションを促進し、検査が持続可能で強靱な医療システムにおいて不可欠なものになるよう注力しています。日本は新興市場におけるヘルスケアと医療システムを形成できる世界的リーダーであり、GHIT Fundとの長年にわたるパートナーシップをもとに、患者により近いPOCT結核診断を可能にしました。また住血吸虫症に対する検査薬開発においても協業してきました。今後もFINDとGHIT Fundのパートナーシップでグローバルヘルスへ貢献していきます。

世界NTDの日への参画



GHIT Fundは2024年1月30日の「世界NTDの日」に、世界NTDの日・日本実行委員会の一員として、顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases: NTDs）についての理解や関心を高めてもらうことを目的としたウェビナーを開催しました。ウェビナーでは、当基金CEOの國井修による「教えて國井先生!」のコーナーを実施し、「NTDsとはなにか?」「日本にはNTDsはないのか?」などの学生からの質問に答えながら、それぞれの業界や研究者としての立場からNTDsの現状や課題について解説しました。

また、世界NTDの日に向け、一般社団法人NTDs Youthの会が国内では初めて「第一回 顧みられない熱帯病 学生コンテスト」を企画・開催し、GHIT Fundは本コンテストに協賛しました。本コンテストはユース世代にNTDsについて広く理解や関心を高めてもらうことを目的とし、中学生から大学院生まで35作品の応募がありました。GHIT Fundは「パートナーシップを通じての課題解決」を提示した千葉県立幕張総合高等学校 看護学科1年生の4名にGHIT賞を授与しました。

顧みられない熱帯病(NTDs)制圧に関する声明「長崎アウトカム・ステートメント」



2023年5月、GHIT Fund、国立大学法人長崎大学(以下、長崎大学)およびUniting to Combat NTDsは「G7長崎保健大臣会合開催記念 国際シンポジウム『顧みられない熱帯病に対する研究開発とアクセス&デリバリーの加速化に向けて』」を開催しました。世界各国のグローバルヘルスのリーダーが一堂に会し、国際社会に顧みられない熱帯病(NTDs)制圧に関する声明「長崎アウトカム・ステートメント」を策定し、表明しました。

本ステートメントは、「キガリ宣言」を再認識し、ユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)とパンデミック対策に関するG7で掲げられた野心的な目標の達成に対して、NTDsへの取り組みがいかに重要であるかを概説しています。また、本ステートメントでは、研究開発およびアクセス&デリバリーへの投資支援など、G7首脳への6つの提言とともに、世界のNTDコミュニティやグローバル社会が果たすべき7つの行動喚起を示しています。NTD制圧のために持続的な資金調達メカニズムが重要であることも含まれています。

GHIT Fund、長崎大学、Uniting to Combat NTDsを含む約20の団体および個人が署名した本ステートメントでは、G7首脳が「G7広島首脳コミュニケ」においてNTDsに言及し、UHCおよびパンデミックへの備えを優先させることを称賛するとともに、NTDsの診断薬、ワクチン、治療薬の研究開発への投資と、NTDsの影響を受ける最も脆弱な人々がこれらのイノベーションにアクセスできるようにするための継続的な資金拠出を支援するようG7首脳に強く要請しています。NTDsへの具体的な行動と財政的なコミットメントにG7が重要な役割を果たし、G7が国際社会とともに行動する時に、変化をもたらすことができると賛同者一同確信しています。

長崎アウトカム・ステートメントの全文は
右の二次元コードを参照ください。



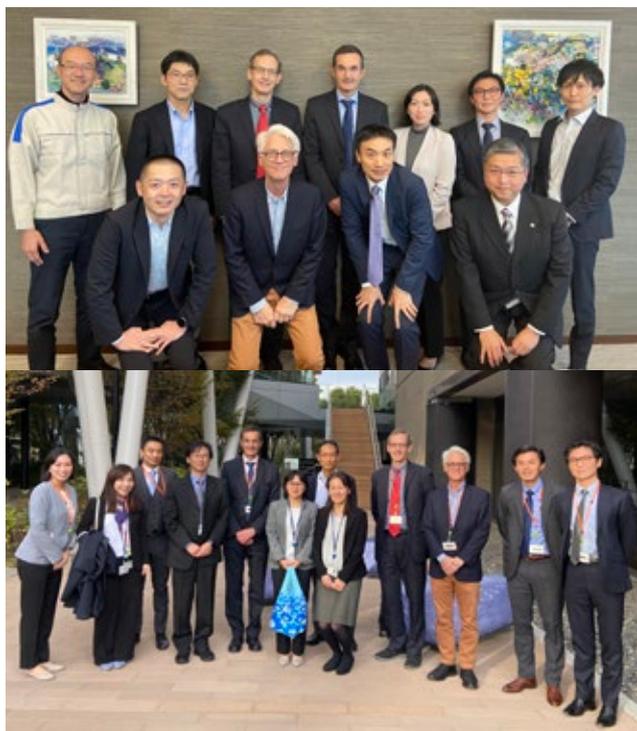
日経・FT感染症会議／国連総会ハイレベル会合のサイドイベントへの参画



日本経済新聞社(以下、日経)主催の「日経・FT感染症会議」が10月に東京で開催されました。GHIT Fundは前年に引き続き協賛し、当基金CEO國井修が「マラリア・結核・NTDと日本のイニシアチブ」や100日ミッションにおける議論のモデレーターなどを務めました。

これに先立ち9月の国連総会ハイレベル会合のサイドイベントでは、日経、日本政府、ストップ結核パートナーシップと共催で、アメリカ・ニューヨークにて「進行中のパンデミック(結核)対応と将来のパンデミックへの備え—シナジーを生むには」と題し、日本が感染症対策にどのように貢献できるか、世界各国の著名な専門家たちと議論を交わしました。

エキスパート・パネル会議を開催



2023年11月、研究開発の初期段階であるリード化合物創出を目指すヒット・トゥ・リードプログラム(HTLP)の有識者と「エキスパート・パネル会議」を開催しました。HTLPのエキスパート・パネルは、TBアライアンス、Medicines for Malaria Venture (MMV)、顧みられない病気の医薬品開発イニシアティブ(DNDi)の、結核、マラリア、顧みられない熱帯病(NTDs)を対象とする3つの医薬品開発パートナーシップおよびBill & Melinda Gates Foundationのメンバーによって構成され、それぞれ医薬品開発において豊富な知識と経験を有しています。現在、スクリーニングやHTLP等の研究開発を共同で行っている田辺三菱製薬株式会社、エーザイ株式会社、第一三共株式会社とともに各プロジェクトの進捗状況や製品開発を加速化するための意見交換を行い、日本の製薬企業との新しい共同研究の可能性などを議論しました。また、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)とは、今後の医薬品開発の連携や将来の展望などについて話し合いました。

「パートナーシップで感染症と闘う国際機関」として
顧みられない感染症に立ち向かいます

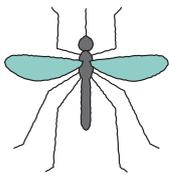




私たちGHIT Fund (ジーヒットファンド) は
マラリア、結核、顧みられない熱帯病に対する
治療薬などの製品開発を支援する国際機関です。

世界から「見過ごされてきた」病気たち

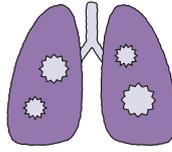
世界ではマラリアや結核、顧みられない熱帯病など低中所得国でまん延する様々な感染症で多くの人が苦しんでいますが、治療や予防のための製品が十分になく見過ごされてきました。



マラリア

2022年死亡者数

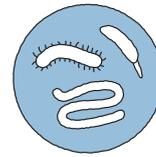
61万人^{*1}



結核

2022年死亡者数

130万人^{*1}



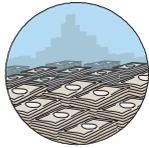
顧みられない
熱帯病

2021年感染者数

16億人^{*1}

*1 WHO調べ *2 国立研究開発法人国立がん研究センター調べ

新薬を開発することの難しさ



お金がかかる
(500億円以上)



時間がかかる
(10年以上)



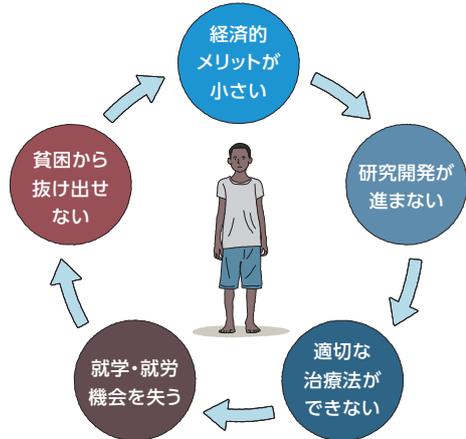
利益が出ない



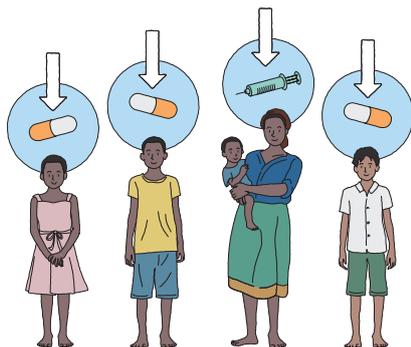
ハードルが高い



企業が製品開発に参入しにくい



そんな中、患者さんは負のサイクルに



これらの課題に
GHIT Fundは
立ち向かいます



課題解決のための取り組み



資金調達



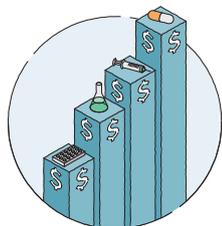
製品開発への投資



患者さんの手に

GHIT Fundは、マラリア、結核、顧みられない熱帯病などの企業が参入しにくい治療薬、ワクチン、診断薬などの製品開発を支援する国際的な非営利組織で、グローバルな官民パートナーシップを通じて資金調達を行っています。

数字で見るGHIT



これまでの投資額

300億円以上



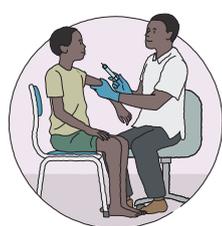
研究プロジェクト数

120件以上



研究開発パートナー

170機関以上



臨床試験

10件以上



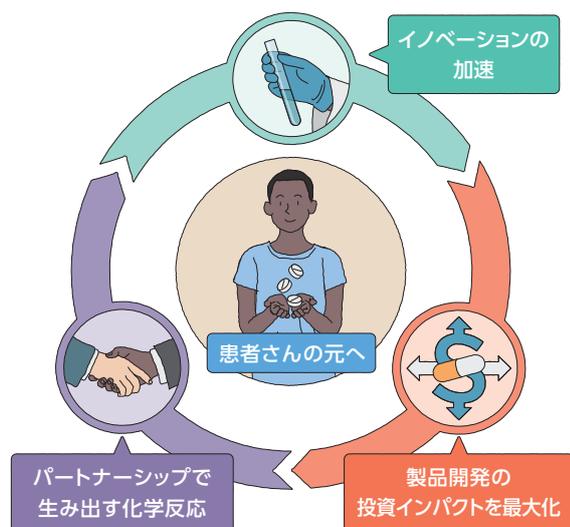
薬事承認

1件

*2023年12月末時点

2027年までの達成目標

苦しむ患者さんのもとへ、新しい治療薬、診断薬、ワクチンを届ける

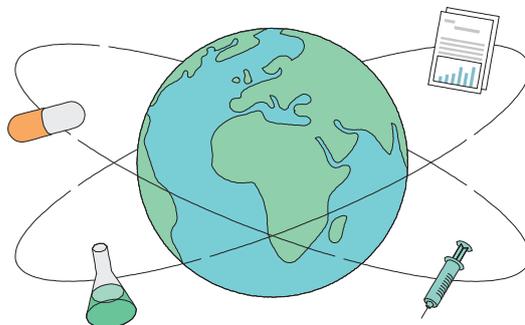


GHIT 3.0

第3次5カ年計画

「顧みられない感染症」をグローバルな連携で解決

GHIT Fundは、政府、民間企業、財団、NGO/NPO、国連機関など、日本と海外の機関を結び製品開発を加速化するネットワークのハブとなっています。



日本 60機関以上

海外 100機関以上

GHIT's Diverse Culture

座談会

10年の歩みと多様な働き方

2013年4月に事業を開始したGHIT Fund(以下GHIT)は10周年を迎えました。組織としての成長を支える一つには、社員の多様なバックグラウンドや価値観、多様な働き方を尊重するGHIT Cultureが存在します。これまでの10年の歩みを振り返りながら、GHITで働く魅力について語り合いました。

写真左から、浦辺 隼(投資戦略 兼 ポートフォリオディベロップメント & イノベーションズ アソシエイトヴァイスプレジデント)、小山恵理子(投資戦略 兼 ビジネスディベロップメント シニアマネージャー)、柴田大樹(エクスターナルアフェアーズ & コーポレートディベロップメント マネージャー)

低所得国支援、世界の健康に 貢献したい想いで入社

浦辺: 私は2016年4月にGHITに入社し、今年で8年目になります。10周年を迎える



GHITの節目に立ち合い、組織としてもチームとしても成長を実感しています。私が統括している投資戦略チームは、新規技術シーズの探索、GHITのコアである製品開発プロジェクトの審査から投資の補助、投資案件の進捗管理、アクセス戦略構築から導入のサポートを担当するチームです。

小山: 私は投資戦略のチームの中でも、パートナーのマッチングや様々なステークホルダーとのコミュニケーションを担うチームであり、早期研究開発の促進、新規パートナーとの結びつき、まだGHITの研究開発に参画していない機関に対し製品開発パートナーにならないかアプローチする、投資戦略兼ビジ

ネスディベロップメントの部署にいます。

柴田: 私は昨年9月に入社しました。現在、渉外担当として、資金調達、理事会などの運営を担当しています。

創設10周年を迎えて、 振り返りとやりがい

浦辺: 創設当初はGHITという日本発の国際的な官民パートナーシップが認知されることが重要で、投資(助成)を決定して研究開発プロジェクトが進むことが成功の一つの指標でした。しかし8、9年目ともなると、製品開発のステージも着実に進み、投資を行うだけでなく、投資したプロジェクトが進捗し、臨床試験、薬事承認などヘシームレスに進み、製品をいかに現地に届けていくかという段階まで重点的に検討するステージに移行しました。チームには製品を現地に届けるためのアクセス&デリバリーを担当するチームメンバーも増え、チームも組織も10年で大きく成長してしまし

た。研究開発のプロジェクト数、累計投資金額も右肩上がりで増え、一人一人が担う責任も増えてきていますが、やりがいも増えています。社員みんなが同じ気持ちで向かっているからこそ、10年続いてきたのだと確信しています。

小山: 私もようやく投資の成果が見えてきた頃で、やりがいを感じています。GHITでは、投資プログラムに応募いただく際、必ず日本のパートナーと日本以外のパートナーと一緒に研究開発することを条件としています。日本の機関と海外の機関が各々持つ良さ(長所)を掛け合わせて、オープンイノベーションで治療薬、診断薬、ワクチン(製品)を開発しようという考えが、根幹にあるためです。ここで当然、日本の研究者の方がGHITの投資プログラムに応募したいのに適切な海外のパートナーが見つからない、との壁にぶつかる時があります。そこで両機関を結びつけ、いわゆるマッチングをする役割が私の仕事で

す。公募に申請するまで2、3年かかることや、新しいパートナーを見つけて何度も公募に挑戦いただく場合もあります。そしてそのプロジェクトが採択された時に最もやりがいを感じます。

柴田： 私は入社してまだ間もないですが、入社直後に、理事会やGHIT10周年



記念ディナーが開催されました。私にとっては初めてとなるGHITの会議体やイベントの運営でしたので、経験豊富なチームメンバーと共に入念に準備をしました。理事会では、細部まで配慮して準備したことでスムーズに会議を進行できたと思います。また10周年記念ディナーでは、重要なステークホルダーをお招きした一大イベントでしたが、成功裏に終わり大きな達成感を感じると共に、多くのステークホルダーの皆様に支えられていることを肌で感じ、身が引き締まる思いでした。

多様な働き方を推進する

GHITのカルチャー

浦辺： GHITはまだ創設10周年、少数精鋭の社員で事業展開していることもあり、当時、GHITの中で子どもを持ちながら仕事をするメンバーはおらず、実際に規模が大きくなるにつれて、子育てをする方を採用する際には仕事と家庭の両立や、そのバランスの取り方が難しい局面もありました。大切なことは、限られた時間の中で集中して生産性を上げ、上司との信頼関係を築きながら、上司にもチームにも理解をしてもらうことです。自分の働き方についても理解をしてもらえたと感じています。それは今も変わらず、現在、私のチームには子育て中の社員が多くおりますが、境遇を共有しあいながら、助け合い、業務を推進しています。

小山： 私は2年前に出産し、産休、育休を取得して戻ってきました。ただ夫の

仕事が多忙で、どうしても私が子どもの送り迎えをする必要があり、復帰当初は果たしてフルタイムで仕事ができるのか不安でした。しかし先輩の女性社員がフルタイムで働いている先例があり、柔軟な働き方に理解があります。

浦辺： GHITでは柔軟な働き方ができるような制度があります。その一つがコアタイムなしの完全フレックス制度です。例えばヨーロッパとのリモート会議の時は、夜会議を行う場合が多いのですが、その時は、いつもより1時間早く退社するというやり方もあります。

柴田： 私の妻もフルタイムで働いており、子どもの保育園への送り迎えを私がすることが多い状況です。午後5時には保育園にお迎えに行くため、フレックス制度を活用しています。子どもが熱を出して看病をする必要がある場合は在宅で仕事をすることもあります。上司やチームメイトの理解を得られていることは安心材料です。

浦辺： 外国籍の方も何名か在籍しており、多様な価値観を融合し、新しいアイデアを生みだしています。それぞれ働く場所や時差などの観点でも多様でフレキシブルな環境で働いているので、情報共有を密にしています。

小山： リフレッシュタイムの制度も非常に助かっています。保育園に預けて1年目は、子どもがよく熱を出して、有給休暇を多く使わざるをえませんでした。そのほか、定期的な通院の際も、この制度が利用できます。

※リフレッシュタイム：週1回3時間自分の時間に使ってよく、就業時間とみなされる。

浦辺： こうした制度は、責任感と成果主義が基本の考え方です。自己管理が大切であり、しっかりと成果を出すことが求められます。限られた時間を効

率的に活用すると同時に、チーム、上司との信頼関係やコミュニケーションが重要なのは言うまでもありません。

GHITでのキャリアビジョン

柴田： 実は私は今も、前職の航空業界への熱い思いを持ち続けています。GHITのビジョンは、10億人以上が苦しんでいる感染症を無くし、誰もが公平に健康を享受できる世界を目指すことです。現在の担当業務を遂行することでビジョンを達成し、より多くの人々が健康で、安心して、空港を通じて好きな場所に行き、大切な人に会える。そんな世界に少しでも貢献できたらいいなと思っています。

小山： まだまだ「顧みられない病気」の啓発が進んでいませ



ん。GHITを知らない研究者や多くの方にGHITのことを知ってもらうため、直接会って話をしたり、日本の技術の素晴らしさをグローバルに伝えるなど着実に一歩ずつ前に進みたいです。

浦辺： 私は自分の指針として、「研究と社会をつなぐ」「日本と世界をつなぐ」「低中所得国と高所得国をつなぐ」を3つの柱としてあげていて、日本から貢献できるものを導いていきたいと考えています。今の仕事はこの3つについて幸い関わることができていますが、もっと革新的な視点から新しい技術や新しいアプローチを発掘していきたいと考えています。マネジメントする立場で言えば、社員には、最終的に各々のキャリアビジョンにできるだけ近づける経験をGHITでもらいたいと思っています。GHITの中でどういったスキルを積み、自分たちの将来の夢に近づけるか、お手伝いしたい。チームメンバーの大胆なビジョンを支えるのも、私のビジョンの一つです。

財務報告

2023年度決算書概要

貸借対照表

資産の部		百万円
流動資産		51.2
固定資産		8,723.7
資産合計		8,774.9

負債の部		百万円
流動負債		110.8
固定負債		5.5
負債合計		116.3

正味財産の部		百万円
指定正味財産		8,658.6
一般正味財産		-
正味財産合計		8,658.6
負債及び正味財産合計		8,774.9

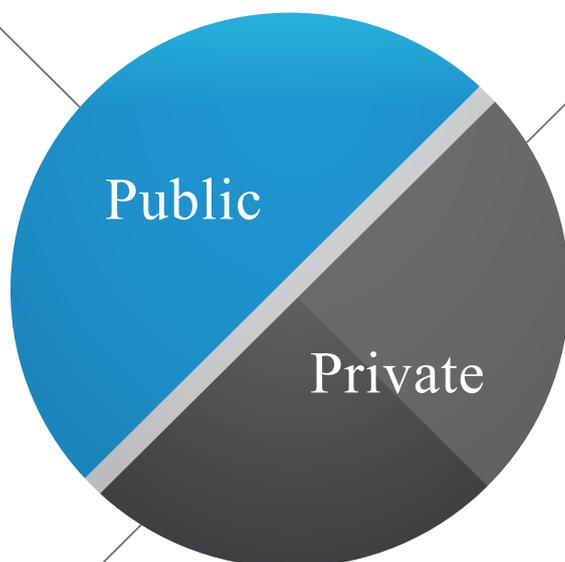
本概要は、EY新日本有限責任監査法人の監査に基づくGHIT Fundの監査済財務諸表(第12期令和5年4月1日～令和6年3月31日)から抜粋したものです。GHIT Fundは、公益社団法人として日本国内に登録されています。

資金拠出パートナー&スポンサー

Full Partners



Full Partners



正味財産増減計算書

一般正味財産増減の部		百万円
経常収益		
受取補助金等		2,763.8
受取寄附金		699.3
為替差益		275.8
雑収益		8.9
経常収益計		3,747.8
経常費用		
事業費		3,576.4
管理費		171.4
経常費用計		3,747.8
経常外費用		
経常外費用		0.0
経常外費用計		0.0
指定正味財産増減の部		百万円
受取補助金等		
受取助成金(政府、国際機関等)		3,618.6
受取助成金(財団)		1,359.7
受取寄附金		1,606.7
指定正味財産合計		6,585.0

Full Partners



Associate Partners



Affiliate Partners



Sponsors



2024年3月31日時点

リーダーシップ

評議会

GHIT Fundに資金を拠出している日本政府、財団、民間企業により構成され、評議会と理事会メンバーの選任または解任、定款の変更、決算書類の承認など、法令または定款に定められた重要事項の決議を行います。



赤堀 毅
外務省
地球規模課題審議官(大使)



日下 英司
厚生労働省
大臣官房 国際保健福祉交渉官



トレバー マンデル
ビル&メリンダ・ゲイツ財団
グローバルヘルスプログラムプレジデント



シェリル ムーア
ウェルカム
チーフ・リサーチプログラム・オフィサー



アステラス製薬株式会社
安川 健司
代表取締役会長



エーザイ株式会社
内藤 晴夫
代表執行役CEO



塩野義製薬株式会社
手代木 功
代表取締役会長兼社長 CEO



第一三共株式会社
眞鍋 淳
代表取締役会長 兼 CEO 会長執行役員



武田薬品工業株式会社
クリストフ ウェバー
代表取締役社長 CEO



中外製薬株式会社
奥田 修
代表取締役社長 最高経営責任者(CEO)

理事会

グローバルヘルスマネジメントの領域で豊富な経験を持つエキスパートにより構成され、リーダーシップチームの業務を監督し、重要な規程、中期戦略・年次計画および予算、投資案件の承認など業務執行に係る重要事項の決議を行います。



会長・代表理事
中谷 比呂樹
慶應義塾大学医学部
訪問教授



副会長
ピーター ピオット
ロンドン大学衛生熱帯医学大学院教授
欧州委員会委員長 特別顧問



専務理事
國井 修
GHIT Fund CEO



井谷 哲也
厚生労働省
大臣官房国際課 国際保健・協力室長



アン ヴェネマン
元国連児童基金(UNICEF)事務局長
元米国農務長官



江副 聡
外務省
国際保健戦略官



マヒマ ダトラ
バイオロジカル・イー・リミテッド社
マネージングディレクター



門間 大吉
株式会社国際経済研究所
副理事長



監事
石黒 光
株式会社インスパイア
監査役



監事
コー ヤン タン
元世界銀行副総裁兼法律顧問
元ハーバード大学/イェール大学ロースクール講師
国際弁護士



監事
中村 さおり
平山・流矢・白井法律事務所
弁護士



オブザーバー
ケイティアインテルス オウエン
ビル&メリンダ・ゲイツ財団
顧みられない熱帯病/
ワクチン開発部門 ディレクター



オブザーバー
リチャード シーブрук
ウェルカム インディペンデントシニアアドバイザー
360Biomedical Ltd CEO
ブリストル大学 客員専門家

選考委員会

治療薬、ワクチン、診断薬における研究開発において豊富な知識と経験を持つ国内外のエキスパートにより構成され、プログラム申請者からの申請書および進捗報告書の審査・評価を行い、その結果に基づいて、理事会に対して投資案件を推薦します。なお投資プログラムとの利益相反の可能性を排除するため、選考委員会には民間企業の役員を含んでいません。



選考委員長
アン ミルズ ドゥガン
コンサルタント



石井 健
東京大学医科学研究所 教授



上村 尚人
大分大学医学部臨床薬理学講座 教授



小山 裕雄
国立研究開発法人 理化学研究所
環境資源科学研究センター
創業化学基盤ユニット 基盤ユニットリーダー



ティモシー ジンクス
ウェルカム
感染症対策 責任者



ケン ダンカン
ビル&メリンダ・ゲイツ財団
Discovery & Translational Sciences部門次長



アナ カリン テイデン
創業化学専門家



カレン L. ミンジ
コンサルタント
※2024年3月22日退任



矢島 理恵子
スタンフォード大学医学部
SPARKプログラムトランスレーショナルリサーチ
創業イノベーションディレクター



ポール ヨルゲンセン
コンサルタント

リーダーシップチーム

事業や投資戦略の策定、理事会の承認に基づいた戦略の遂行、管理業務の実施、および組織の成長を促進します。



國井 修
CEO



浦辺 隼
投資戦略 兼
ポートフォリオ開発 & イノベーションズ
アソシエイトヴァイスプレジデント



酒井 伸
コーポレート・オペレーションズ
アソシエイトヴァイスプレジデント



関 一恵
エクスターナルアフェアーズ &
コーポレート開発
ディレクター



高澤 美保
ファイナンス & オペレーションズ
シニアディレクター



麦谷 英理子
ブランドコミュニケーション
アソシエイトディレクター

資金拠出パートナー & スポンサー

GHIT Fundの投資事業や組織運営は、資金拠出パートナーやスポンサーの多大な支援によって成り立っています。
皆様からのご支援ご協力に心より御礼申し上げます。

Full Partners



外務省



厚生労働省



国連開発計画



ビル&メリンダ・ゲイツ財団



ウェルカム



アステラス製薬株式会社



中外製薬株式会社



第一三共株式会社



エーザイ株式会社



塩野義製薬株式会社



武田薬品工業株式会社

Associate Partners



富士レビオ・
ホールディングス株式会社



大塚製薬株式会社



レメディ・アンド・カンパニー
株式会社

Affiliate Partners



富士フイルム株式会社



協和キリン株式会社



Merck KGaA



田辺三菱製薬株式会社



住友ファーマ株式会社

Sponsors



株式会社パーソン・
コーン&ウルフ・ジャパン



Diligent Japan合同会社



栄研化学株式会社



Forbes JAPAN



森ビル株式会社



モリソン・フォースター
法律事務所



株式会社セールス
フォース・ジャパン



ZVC JAPAN株式会社

2024年3月31日時点

パートナーシップで感染症と闘う国際機関



組織概要

名 称 公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
Global Health Innovative Technology Fund

所在地 〒106-0032 東京都港区六本木一丁目9番10号 アークヒルズ仙石山森タワー25階
TEL:03-6441-2032 FAX:03-6441-2031

設立日 2012年11月6日(2013年4月より事業開始)

会長・代表理事 中谷 比呂樹
CEO・専務理事 國井 修

事業内容 1. 開発途上国向け医薬品開発におけるグローバルな連携の推進
2. 医薬品開発のグローバルな連携への投資
3. 日本のグローバルヘルス分野における国際貢献の推進と強化

ウェブサイト <https://www.ghitfund.org/jp>

パートナーシップで感染症と闘う



Global Health Innovative Technology Fund

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金

〒106-0032 東京都港区六本木一丁目9番10号 アークヒルズ仙石山森タワー25階 TEL: 03-6441-2032 FAX: 03-6441-2031 www.ghitfund.org/jp

Copyright © Global Health Innovative Technology Fund / 2024.06